

二〇二三年度

早稲田大学大学院文学研究科

入学試験問題

【修士課程】

専門科目

東洋哲学コース

※回答は別紙（縦書）

一、次のAからFの中から、一つを選び、知るところを述べよ。（解答用紙に題名を明記せよ。）

A、インド佛教におけるアーラヤ識説

B、『論語』の成立とその展開

C、『莊子』の天觀と『荀子』の天觀

D、儒教の佛教批判

E、日本における密教の意義

F、人を神として祀る思想の展開

二、次の諸問中から、六問を選んで説明せよ。（解答用紙に題名を明記せよ。）

※解答用紙三行程度を、解答の目安とせよ。

ア、鄒衍

イ、主一無適

ウ、極樂

エ、出雲神話

オ、孫臏

カ、知行合一

キ、刹那滅

ク、神身離脱

ケ、周禮

コ、大學八條目

サ、最澄

シ、伊勢神道

ス、五經博士

セ、六家要旨

ソ、方便

タ、日本靈異記

チ、孔穎達

ツ、司馬承禎

テ、拈華微笑

ト、唱道

ナ、士道論

ニ、閔一得

ヌ、四苦

ネ、慶滋保胤

ノ、論語古義

ハ、法華文句記

ヒ、龍女成佛

フ、asubhā

ヘ、jñeyāvaraṇa

ホ、viparīṇāmaduhkha

三、次の六問中から、二問を選んで記せ。

(問題番号を明記せよ。)

(一) 次の文章を書き下し文にせよ。

契母簡狄者、有娥氏之長女也。當堯之時、與其妹妹浴於玄丘之水。有玄鳥、銜卵過而墜之。五色甚好。簡狄與其妹妹競往取之。簡狄得而含之、誤而吞之。遂生契焉。簡狄性好人事之治、上知天文、樂於施惠。及契長、而教之理、順之序。契之性聰明而仁。能育其教。卒致其名。堯使爲司徒、封之於亳。及堯崩舜即位、乃勅之曰、契、百姓不親、五品不遜、汝作司徒、而敬敷五教在寬。其後世世居亳、至殷湯、興爲天子。

君子謂、簡狄仁而有禮。

詩云、有娥方將。立子生商。

又曰、天命玄鳥、降而生商。此之謂也。

(二) 次の文章を書き下し文にせよ。

或曰、敢問欲修長生之道、何所禁忌。抱朴子曰、禁忌之至急、在不傷不損而已。按易內戒及赤松子經及河圖記命符、皆云天地有司過之神、隨人所犯輕重、以奪其筭。筭減則人貧耗疾病、屢逢憂患、筭盡則人死。諸應奪筭者、有數百事、不可具論。又言身中有三尸。三尸之爲物、雖無形而實魄靈鬼神之屬也。欲使人早死、此尸當得作鬼、自放縱遊行、饗人祭酌。是以每到庚申之日、輒上天、白司命道人所爲過失。又月晦之夜、竈神亦上天、白人罪狀。大者奪紀、紀者三百日也。小者奪筭、筭者三日也。吾亦未能審此事之有無也。然天道邈遠、鬼神難明。

(三) 次の文章を書き下し文にせよ。

心之所同然始謂之理、謂之義、則未至於同然、存乎其人之意見、非理也、非義也。凡一人以爲然、天下萬世皆曰、是不可易也、此之謂同然。舉理、以見心能區分、舉義、以見心能裁斷。分之、各有其不易之則、名曰理、如斯而宜、名曰義。是故明理者、明其區分也、精義者、精其裁斷也。不明、往往界於疑似而生惑、不精、往往雜於偏私而害道、求理義而智不足者也。故不可謂之理義。自非聖人、鮮能無蔽、有蔽之深、有蔽之淺者。人莫患乎蔽而自智、任其意見、執之爲理義。吾懼求理義者以意見當之、孰知民受其禍之所終極也哉。

(四) 次の文章を書き下し文にせよ。

一天眼通。修天眼者、若於深禪定中、發得色界四大清淨造色、住眼根中能見六道衆生死此生彼、及見一切世間種種形色。是爲天眼通。二天耳通。修天耳者、若於深禪定中、發得色界四大清淨造色、住耳根中即能聞六道衆生語言、及世間種種音聲。是爲天耳通。三知他心通。修他心智者、若於深禪定中、發他心智、即能知六道衆生心及數法、種種所緣念事。是爲他心通。四宿命通。修宿命通者、若於深禪定中、發宿命智、即能知自過去一世二世百千萬世乃至八萬大劫宿命、及所行之事。亦能知六道衆生所有宿命、及所作之事。是爲宿命智也。五身如意通。修身通者、若於深禪定中、發得身通。通有二種。一者飛行速到山障無礙。二能轉變自身他身、及世間所有、隨心自在。是爲身如意通。六漏盡通。修漏盡通者、若於深禪定中、發見思眞智則三漏永盡。是爲漏盡神通也。

(五) 次の文章を書き下し文にせよ。

夫以祖師智證大師 承和年中、爲受持佛法 渡海入唐。待便風於一葦之中、
凌逆浪於万柳之外。適依本山三寶之加護、得屆長安青龍寺。隨法詮闡梨、
一々受顯蜜之道。入堂義淳、瀉瓶事畢之後、遂歸本朝。有一老翁、現於船
中曰、我是新羅國明神也。爲和尚護持佛法、期以慈尊出世。作是言畢、其
形不見矣。和尚歸朝之日、公家令所持佛法門運納于太政官。于時前日老翁
来云、此日本國有一勝地、宜建立一伽藍、安置此佛法。遂到近江國滋賀郡
菟城寺。

(六) 以下の文章を和訳せよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

受験番号	
氏名	カナ
	漢字

この欄以外に受験番号、氏名を記入しないこと。
漢字氏名がない場合は、ひらがなで記入すること。

———「」から記入する「」———

Blank area with vertical lines for writing.

(裏へ書く)

東洋哲学

総 点

--

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

(裏へ続く)

「」から記入する「」

(裏へ続く)

—————これより先の余白には絶対に記入しないこと—————